3 地図NO.

イベント名 **ちびっこワクワク森あそび**

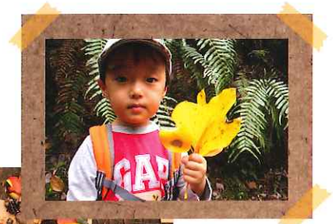
主催　県立森林公園運営協議会　　問い合せ先　053－583-0443（山崎）

『かくれみの』の葉を使ったジャンケンに夢中な子供達。

浜北の県立森林公園で、秋の森の宝探しをしながら親子で楽しく森遊びをする会が行われました。6歳児以下の親子を対象にしています。広い広い森林公園の中で、どんな宝物をみつけられるでしょうか？まず、探検前の準備体操がわりに全員で「だるまさんがころんだ！」をしました。子供達は大騒ぎ！少し緊張していた子も、あっという間に笑顔になりました。ガイドさん達が、楽しく進行していきます。「森の探検」をするためには、「ルール」の大切さや、仲よくなる方法を知ってもらいたいのです。ガイドさんたちは、遊びを通して優しく教えてくれました。

自然の中で体験を通して学んでほしい

探検が始まると、道に黄色い葉が沢山落ちているポイントにさしかかりました。ガイドさんが、「これは『かくれみの』という葉っぱで、グー、チョキ、パーと、これでジャンケンができるんですよ。これから葉っぱでジャンケンをするので、みんなで地面を探してみてください」と言うと、子ども達は、「どこにあるの！？」と大慌て。「ぼくの拾ったこれは、グー？チョキはどこ？」早く探さないと無くなっちゃう！森のジャンケン大会は、大盛り上がりでした。広場に着くと、それぞれが集めた宝物を使って、ダンボールのキャンバスに絵を描きます。大人達も夢中です。画伯が沢山いましたよ。



森で見つけた「宝物」を使って画を描く。テーマは自由。「お弁当箱」「おばけ」「パパの顔」色んな発想が楽しい。

森の伝言ゲームだよ！

森を歩く中で行われた「伝言ゲーム」。ガイドさんが教えてくれた事を後ろの人に間違いなく伝えられるかな？

これは小さいけどウルシです。触るとかぶれるよ！

これはタヌキのうんちだよ！

Interview　ガイドさんにインタビュー

稲津達義さん

少年少女センターはままつ飯田地区あそびの会の代表。幼稚園の先生もビックリ！の「あそびの達人」です。「森で遊ぶ時は、自分も童心に返って、楽しむ事が大事です。後は、安全に気をつけるとか、大人の目線も忘れないこと（笑）」

新野忠密さん

「市販のおもちゃと違って、森の素材で"あそぶ"ということは、創造力を使います。そういう経験を通して、命のつながりとか、大切さを感じられる様になってもらいたい。その為には子ども達に体験してもらう事が、とても大事だと思っています。」

静岡県立森林公園ビジターセンター　自然解説員　**山崎智也** さん

森で拾ったものを見て黄色の中にも色んな赤が混じっていたり緑が混じっていたり、匂いがある葉っぱなど‥そういう事を感じ取って欲しいです。最近は、学校から帰ってきても、友達と遊ぶという事が少ないと聞くので、もっと子供達に森に来て遊んでほしいです。

14 地図NO.

イベント名 **ししくぼの森で遊ぼう学ぼう！**

主催　NPO法人　まちこん伊東　　問い合せ先　090－2777-9345（田畑）

測って調べ、五感で体験する森の健康診断

伊東市の猪久保の森の中で、子供達と一緒に「森の健康診断」が行われました。人工林は定期的に間引き（間伐）して、残した木の成長を促すのですが、それをしないで放っておくと、木材を生産できない森になってしまうだけでなく、森が不健康、不安定な状態になり、雨、雪、風、地震などに対して弱い森になってしまいます。その状態を規定に照らし合わせて確認し、診断します。環境カウンセラーの大河原通高さんが付き添い、子供達は森の中へ。薄暗い森の中で、「健康診断」は始まりました。

健康診断シートの内容に沿って、円を作り、その中に生えている木のサイズや、地形（角度）などを測ります。子供達が調査した森の場合は、適正な本数は、5本なのですが、実際には14本もあり、過密状態。不健康な森と診断されました。この森は、適正な本数に間引く必要があるようです。反対側の森は、すでに間伐されていて、日が差して明るく、下草も生えて対照的でした。森の木を切り倒す、と言うと、あまり良い印象ではありませんが、森を守ったり、災害を防ぐためには必要な事です。それを子ども達が身を持って実感できる、貴重な機会になりました。

竹の竿を縛り付けて竿の長さを目印に、木の高さを目測する。

方位と地形の角度を測っています。

この木の太さはどれくらいかな？

診断シートに書き込んで‥‥。

この日は記念伐倒もあり、植えてから約40年経つヒノキを切り倒しました。その他にも、竹筒で作ったお茶碗で、お抹茶を頂く「森のお茶会」、竹や木をチップソーにかけて粉々に砕く体験をする「チッパー（粉砕機）を使ってみよう」、桜の木を使った工作「桜の鉛筆ブローチ・マグネット作り」も行われ、子供達の熱心にとりくむ姿が見られました。

森の中で頂くお茶は特別な味。2杯、3杯とおかわりをする子も。

竹を使った炊き込みご飯。ほんのり竹の香りがして、たまらなく美味しい。

NPO法人
まちこん伊東
田畑朝惠 さん

伊東市内のお父さんお母さんが、まちこん伊東に気軽に参加してくれて、主体的に森の中で遊びを計画してくれるようになるといいな、と思っています。

9 地図NO.

イベント名　**森林探検隊**

第36回 全国育樹祭（平成24年秋 静岡県開催）

主催　興津川保全市民会議　　問い合せ先　054-224-1319（渡辺・飯塚）

台風の倒木を乗り越えて歩く

2011年は大きな台風の被害が各地であり、森に行く途中、数多くの台風の爪痕を山に見ました。この日は、台風の倒木がある山を歩く、というイベントです。森林を健全に保つ事の意味を、現場を見て、体験して「学ぶ」というのが目的です。イノシシの罠などを見つけたり、ガイドさんの話に耳を傾けながら山に分け入ると、目の前に現れたのは、小さな谷間に掛かる丸太の橋。興津の山を守る、S-GITさん達の手作りです。

ロープ1本の手すりを握り、慎重に渡ります。この難関を超えると、いきなり急な道なき道をよじ登ります。ガイドさんがいなければ、次の1歩も迷う危険な場所、と思っているのは、大人だけで、子供たちはスイスイと難なく進んで行きます。それでも、急な場所では、地元の子供達が慣れた様子で低姿勢で下りるのを見て、都会の子達も見よう見真似で必死で付いていきました。台風で倒れた木と、間伐して倒された木の間を器用に歩く子供達。貴重な体験です。ガイドさんによると、安全に歩けるよう、前もって整備していますが、できるだけ自然の状態を見てほしいので、倒木を活かした状態でルートを考えているそうです。

ガイドさんが、木の周りに子供達を集めます。「みんなは、キツネは知ってるかな？キツネは騙す動物だと思う人～？」ちらほらと手をあげる子供達に、「実は、キツネは狩りをする時に、獲物を騙す。これをチャーミングといいます」と教えてくれました。それから、この日は他に「こんにゃく作り」や、竹を伐採して玩具を作る「竹取り物語」、火起こしの速さを競う「お湯沸し大会」などが行われました。様々な体験を通して、「自然の素晴らしさを子供達に伝えたい」というS-GITの方々の熱い思いが詰まった一日でした。

出来たよ！見て！

ガリガリ

午後のメインイベント「竹取り物語」。子供達が竹を伐採し、鋸を使って竹の玩具（ぽっくり）を作ります。

出席率№1という男の子は鋸の使い方が大人顔負けに上手い。

「キツネのように相手を上手く騙すゲーム」が始まりました。2グループに分かれて胡桃を手に隠し持った人を当てるゲームです。相手を上手く騙せるキツネになれたかな？

年輪の数を数えます。そして問題Q「この切り株の木の先端の年輪の数は、いくつでしょうか？」皆で年輪を数えます。「少ない！どうして？」それは、育ち方に関係があるのですね。ガイドさんが丁寧に教えてくれました。

興津川保全市民会議　事業委員長　**望月誠一郎** さん

子供達はこういう場所（森）に来ると、最初は大丈夫かな？と心配そうな顔をしていますが、そのうち森の中をとびまわり、どんどん元気に明るくなっていくのです。森を楽しんで帰ってもらえればいいな、と思っています。

10 地図NO.

イベント名　**とっておきの山歩き～樹海と溶岩洞窟探検～**

主催　田貫湖ふれあい自然塾　　問い合せ先　0544-54-5410（村中）

大人が味わう。自然からの感動体験

少し肌寒くなってきた朝、自然塾に集まったのは大阪や東京、神奈川からのご夫婦や友人グループです。それぞれに、簡単な自己紹介を経て、樹海に出発しました。鬱蒼とした木々が根を張り巡らせ、コケが生い茂り、昼間でも薄暗い樹海。しばらく歩いていくと、「天然記念物　富士風穴」の石碑が。すぐ近くには、溶岩の流れが解るような道があり、この樹海が溶岩の上に1200年の時を経て育った森だという事を教えてくれます。安全を確認しつつ、洞窟の入り口から下へ、3メートルほどの梯子を使って下り、真っ暗な岩場を手さぐりで進んでいきます。

洞窟に入る前に注意事項を確認する。

薄暗い森の中に、突如現れた巨大な洞窟の入り口。

鹿が木の皮を食べた後を観察する。食害は深刻で枯れてしまう木も多い。

富士山の地図を確認しながら森の成り立ちや自然の話をしました。

洞窟は、思ったよりも高さがあり、狭い所でも中腰で通り抜けられるくらいの高さ。（広い所は、幅11メートル、高さが10メートルある）しかし、しばらく歩くと、ひんやりとした冷気と光の反射で、足元が全て氷だということに気づきます。（内部の気温は、一年を通じて、0度から0.1度を保ちます。）照明を落とすと、そこは本物の漆黒の闇。かすかな息づかいの他は何もない無の世界です。参加者は「暗い闇と射してくる自然光・・・その対照が、すごく感動的！」と感嘆の声をあげていました。

洞窟探検を終え、再び歩き出すと、風景が変わってきました。足元の感触や空の明るさが変わり、木々の種類が針葉樹から広葉樹へと変わっていきます。ブナやカエデの木々が多く生える、紅葉の美しい森です。ここも、樹海の一部。溶岩が流れる以前からある古い森です。「樹海の印象が変わった、今度は違う季節に来たい」と参加者は樹海に魅了されたようでした。

丸い形をした葉はカツラ（別名コウノキ）。甘い芳香を確かめながら、秋の深まりを感じます。

ブナの大木。古い森は、まるで神様に見守られているかのように神秘的。

田貫湖ふれあい自然塾　ガイド　**田中里絵子** さん

何気なく通ってしまうとあっという間だけれど、一緒に歩くことで小さな発見や不思議、気づき、ヒントを与えていきたいと思います。未来の子供達のために大事にしていきたい森なので、守り、多くの人に知ってもらう、という事が大事ではないかな、と思います。

※個人の天然記念物、富士風穴（洞窟）への立ち入りは、入洞届の提出や、入山許可の申請が必要になります。